



Call Home 機能をイネーブルまたはディセーブルにする方法

- [Call Home \(1 ページ\)](#)
- [Call Home のイネーブル化 \(3 ページ\)](#)
- [Call Home のディセーブル化 \(3 ページ\)](#)

Call Home

Call Home では、重要なシステム ポリシーに対して電子メールベースの通知が提供されます。ポケットベルサービスや XML ベースの自動化された解析アプリケーションとの互換性のために、さまざまなメッセージフォーマットが用意されています。この機能を使用して、ネットワーク サポート エンジニアにポケットベルで連絡したり、ネットワーク オペレーションセンターに電子メールを送信したりできます。また、Cisco Smart Call Home サービスを使用して TAC のケースを生成できます。

Call Home 機能では、診断情報および環境の障害とイベントに関する情報が含まれるアラートメッセージを配信できます。

Call Home 機能では、複数の受信者 (Call Home 宛先プロファイルと呼びます) にアラートを配信できます。各プロファイルには、設定可能なメッセージフォーマットとコンテンツ カテゴリが含まれます。Cisco TAC へアラートを送信するための宛先プロファイルが事前に定義されていますが、独自の宛先プロファイルを定義することもできます。

メッセージを送信するように Call Home を設定すると、Cisco UCS Manager は CLI の適切な **show** コマンドを実行し、そのコマンドの出力をメッセージに添付します。

Cisco UCS では、Call Home メッセージが次のフォーマットで配信されます。

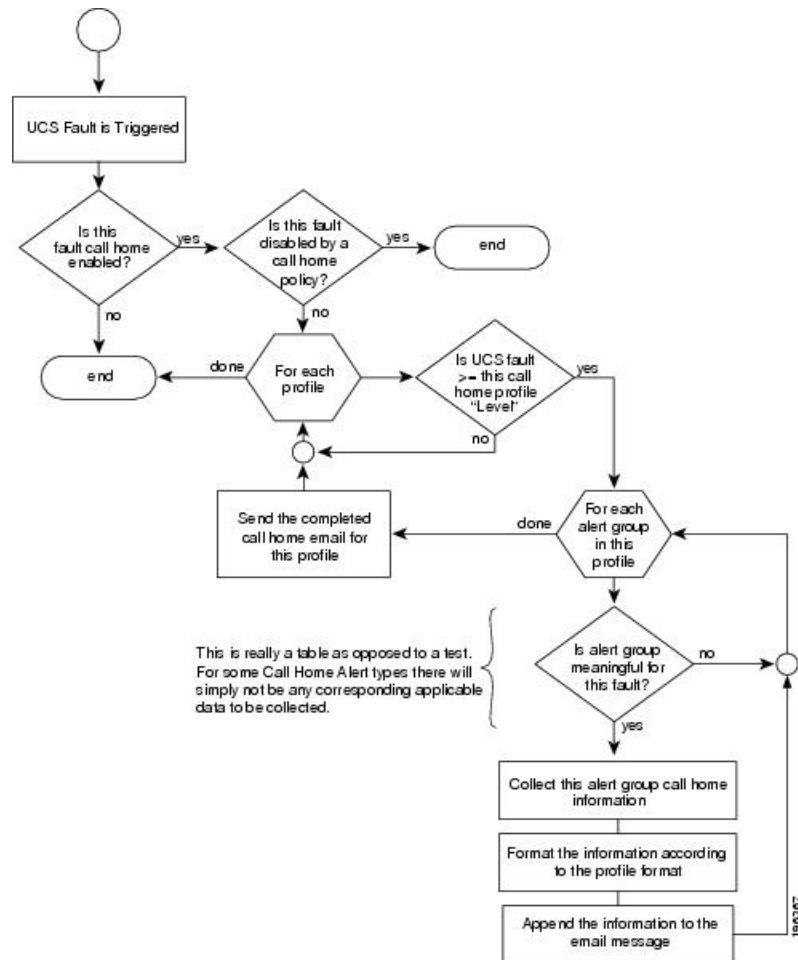
- 1 または 2 行で障害を説明する、ポケットベルや印刷レポートに適したショートテキストフォーマット。
- 詳細な情報を十分に書式が整えられたメッセージで提供する、ユーザが読むのに適したフルテキストフォーマット。

- Extensible Markup Language (XML) と Adaptive Messaging Language (AML) XML schema definition (XSD) を使用する、コンピュータで読み取り可能な XML フォーマット。AML XSD は Cisco.com の Web サイトで公開されています。XML フォーマットでは、シスコの TAC との通信が可能になります。

Call Home 電子メール アラートをトリガーする可能性がある障害についての情報は、『*Cisco UCS Faults and Error Messages Reference*』を参照してください。

次の図に、Call Home が設定されたシステムで Cisco UCS 障害がトリガーされた後のイベントの流れを示します。

図 1: 障害発生後のイベントの流れ



Call Home のイネーブル化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope monitoring	モニタリング モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /monitoring # scope callhome	モニタリング Call Home モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /monitoring/callhome # enable	Call Home をイネーブルにします。
ステップ 4	UCS-A /monitoring/callhome # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、Call Home を有効にし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope monitoring
UCS-A /monitoring # scope callhome
UCS-A /monitoring/callhome # enable
UCS-A /monitoring/callhome* # commit-buffer
UCS-A /monitoring/callhome #
```

次のタスク

Call Home 機能の詳細については、『Cisco UCS System Monitoring Guide』を参照してください。

Call Home のディセーブル化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope monitoring	モニタリング モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /monitoring # scope callhome	モニタリング Call Home モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /monitoring/callhome # disable	Call Home をイネーブルにします。
ステップ 4	UCS-A /monitoring/callhome # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、Call Home を無効にし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope monitoring
UCS-A /monitoring # scope callhome
UCS-A /monitoring/callhome # disable
UCS-A /monitoring/callhome* # commit-buffer
UCS-A /monitoring/callhome #
```

次のタスク

Call Home 機能の詳細については、『*Cisco UCS System Monitoring Guide*』を参照してください。